

北京語の概数を表す"来的"について

著者	牛島 徳次
著者別名	USHIJIMA Tokuj i
雑誌名	中国文化：研究と教育：漢文学会会報
巻	50
ページ	(1)-(12)
発行年	1992-06-20
URL	http://doi.org/10.15068/00150114

北京語の概数を表す“来的”について

牛島 徳次

1. はじめに
2. “来的”の用例
3. “来的”に関する先行文献
4. “啷当”その他について
5. おわりに

(付) 注, 資料, 参考文献

1. はじめに

周知のように、現代中国語で概略の数値を表す場合、数詞に“多”あるいは“来”という語を併用して、「…あまり」とか「…たらず」もしくは「…ぐらい」という意味を表す言い方がある。例えば、“二十多个”、“三十来个”など。

従って、“二十来岁”といえは、「はたちたらず」あるいは「はたちぐらい」という意味を表すが、老舍(1899—1966)の初期の作品には、時折“二十来的岁”という言い方が見えている。どちらも「はたちたらず」という意味であるうが、この両者はどういう関係にあるのか、特に、“来的”は“来”プラス“的”であるのか、それとも“来的”という一語であるのか、こうした点を明らかにしたい、というのが、本稿執筆の主旨である。

2. “来的”の用例

老舍の作品中、“来的”を用いた例として、次のものが挙げられる。

例1 他的身量与筋肉都发展到年岁前边去；二十来的岁，他已经很大很高，……。(《骆驼祥子》p. 7) ¹⁾

例2 ……；这不是马上就有四十来的块？(《骆驼》p. 72)

例3 ……，再加上刘四爷手里那三十多，和自己现在有的那几块，岂不是八十来的？(《骆驼》p. 72)

例4 那辆车也真是可爱，拉过了半年来的，仿佛处处都有了知觉与感情，……。(《骆驼》p. 13)

例5 车才拉过半年来的，连皮带的颜色还没怎么变，而且……。(《骆驼》p.

157)

例6 “学会里每月有各处的补助，凑在一处也有三百来的块。”（《文博士》 p. 258）²⁾

例7 纪妈的男人也出来，跟着三个小孩。他有四十来的岁，高个子……。（《牛天赐传》 p. 493）³⁾

例8 ……，院中大小一共七家儿，孩子有三十来的个。（《牛》 p. 533）

以上の諸用例を図式化すると，次のようになる。

〈公式〉 甲

- I 数詞+量詞+“来的”
〔半〕〔年〕 ～ 《駱》
- II 数詞+“来的”+量詞

二十	～	岁	《駱》
四十	～	岁	《牛》
四十	～	块	《駱》
三百	～	块	《文》
三十	～	个	《牛》
- III 数詞+“来的”
〔八十〕 ～ 《駱》

これら三種の図式に見える“来的”について，文法論あるいは語彙論の面から言及した著作物は，これまで極めて少なく，かつ，その叙述も明快さを欠いている。以下，この点について述べる。

3 “来的”に関する先行文献

概数を表す“来的”は，これまでほとんどすべての場合，“来”という語との関連事項として採りあげられ，記述されるだけにとどまった。その代表的なものとして，下記の諸家の論著が挙げられる。

3.1 張志公 1953⁴⁾

張氏は，概数を意味する“约数”という項で，次のように述べている。

……。“来”只能用在“十”“百”“千”“万”和量词的中间，若是十以下的数词就只能用在度量衡单位之后，并且加“的”字，如“四斤来的”。

(p. 156)

これは、数詞は“十”以下で、度量衡を表す量詞の後にのみ用いられるという条件の下で、“来”の後に“的”が加えられる、と説いており、上記〈公式〉甲のIにはほぼ該当する。

3.2 陸宗達・俞敏 1954

この書では、“不定数詞”という項で、次のように述べている。

……。十个左右是“十来个” srləgə, 一百个左右是“百数个, baisrgə, ……。(p. 84)

量詞跟数目复合的情形，跟数目字“十”“百”“千”“万”的情形大致一样，……。咱拿“块”举例，把他排到底下：

一块 ikuai 一块半 ikuai ban

三块来的 sankuai laida 块儿来(钱) kuarlai (cian) …… (p. 89)

ここでは、“来的”についての説明はないが、“三块来的”という句例は、前記(3.1)の張氏の説と軌を一にするもので、これも上記〈公式〉甲のIにはほぼ該当する。

3.3 呂叔湘 1957A, 1957B

呂氏のこの二編の論文は、概数を表す“来”に関する画期的な研究で、“来的”そのものについては触れていないが、“来”に関して論定した数種類の“公式”が、間接的に“来的”と関係するので、以下に、必要な部分の要旨だけを引用する。

{ 数詞^{*1}+“来”+量詞+名詞 (a) 例：十来斤米
数詞^{*2}+量詞^{*4}+“来”+名詞 (b₁) 例：十斤来米
数詞^{*3}+量詞^{*5}+ (“来”)^{*6}+名詞 (b₂) 例：十三块来钱

「数詞^{*1}」は、「…0, …00, …000, …0000」を、「数詞^{*2}」は、「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10」を、「数詞^{*3}」は、「1, 2, …9」を表し、「量詞^{*4}」「^{*5}」はいずれも「度量衡単位」を表す。また、()^{*6}は、あまり一般的でないことを表す。(《中国語文》第63期)

呂氏はまた、次のように述べている。

……。现代带有“来”字的词组必须让名词或量词煞尾，不能把“来”字放在最后。(《同上》同上)

“来”を用いた数量句の末尾は、名詞あるいは量詞で締めくくらなければならない，“来”を最後尾にしてはならない、というのは正しいが、残念ながら、“的”については言及していない。

呂氏のこの論文に触発されて、“来的”に言及したのが、次の「報告」である。

3.4 劉凱鳴 1957

劉氏は、前記の呂氏の論文に関連して、次のような「補充意見」を提出している。

……。其次，关于数量超过十用不用 (b) 式，我提出一点材料以供参考。在我们这里（山东邹平一带）是说“二十斤来米”、“四十里来路”、“五百亩来地”的；同时也用 (a) 式。还有一个近于 (b) 式的说法：数词+量词+来的+名词。数词大小不受限制，可以说，例如，“五百亩来的地”，“三斤来的米”。（《中国语文》第63期）

この劉氏の「報告」の最終部分に見える“来的”を含んだ図式・用例は、既述(3.1)・(3.2)の張氏や陸・俞氏らの記述には見えなかったもので、これはことによると、劉氏が注記しているように、山東省鄒県一帯での独特な言いかたかとも思われるが、数年後、これと全く同類の用例を掲げた辞典が、それも、現代の北京語の口語の語彙を中心として編述した辞典が、日本で刊行された。下記の書がそれである。

3.5 倉石武四郎 1963

倉石博士は、この辞典の“来”の項で次のように記している。

lái 来(数) ある整数にたいし少し不足な位で大体その数に近いとき。

yǒu 20~rén (有二十~人) = 20人ほどいる(およそ15人から19人ぐらい)。10 diǎn~zhōng (十点~钟) = 10時ごろ。zú yǒu 2 cùn~de (足有二寸~的) = たっぶり2寸ほど(の長さ)。yī jīn~de bái fěn (一斤~的白粉) = 1斤ほどのおしろい。…… (p. 325)⁵⁾

これらの用例中、特に注目されるのは、“二寸来的”と“一斤来的白粉”の二句で、前者は既述の張1953と陸・俞1954の説明と符合し、後者は上記(3.4)の劉1957の説明と一致する。

以上、張1953より倉石1963までの“来的”に関する諸用例を、既述の〈公式〉甲にならい図式化すると、次のようになる。

〈公式〉乙

I 数詞+量詞+“来的”

〔四〕	〔斤〕	~	(張)
〔三〕	〔块〕	~	(陸・俞)

〔二〕 〔寸〕 ～ (倉石)

II 数詞 + 量詞 + “来的” + 名詞

$\left(\begin{array}{c} 五百 \\ 二十五 \\ 三 \\ 一 \end{array} \right)$	$\left(\begin{array}{c} 亩 \\ 里 \\ 斤 \\ 斤 \end{array} \right)$	～ 地 (劉)
		～ 路 (ク)
		～ 米 (ク)
		～ 白粉 (倉石)

この〈公式〉乙を既述の〈公式〉甲と比較、対照すると、“来的”の用法の主な特色は、次のようにまとめられよう。

- (1) 乙のI(数詞+量詞+“来的”)は、甲のIにはほぼ該当し、“来”を含む数量句は“来”で終ることはなく、必ずその後には名詞、量詞あるいは“的”が付加されなければならない、という張1953以降の諸家の説明に合致する。
- (2) 乙のII(数詞+量詞+“来的”+名詞)は、甲には見られず、果たして北京語かどうか、疑問である。
- (3) 甲のII(数詞+“来的”+量詞)と、III(数詞+“来的”)は、いずれも前記(1)・(2)の場合と異なり、数詞の直後に付加され、しかもそのすぐ後に量詞が付く場合は、“岁”“块”“个”など、ごく少数の特殊な語に限られている。用例の数が少ないため、断言はできないが、概数を表す“来的”は、この甲のIIが基本的な形で、甲のIIIはむしろIIの末尾の量詞が省略されたもの、と解釈していいのではないだろうか。

3.6 “来的”の意味とその構造

わたしが初めて老舎の《骆驼祥子》を読んだのは、1956年ごろである。当時わたしの勤めていた東京教育大学に非常勤講師として招聘した陳東海先生(1906—1991)に、放課後の若干の時間を割いて、現代中国語の基本を指導してほしいとお願いしたとき、北京生まれで北京育ちの先生が指定したテキストが、《骆驼祥子》であった。誠に自分勝手な話だが、爾来十数年間、ずっと老舎の作品をテキストにして指導を受けた。

しかし、うかつな話だが、《骆驼祥子》の中の“二十来的岁”は、“二十来岁”と同じ意味だろうぐらいですませていた。この二句の違いに気がついたのは、1969年の春、お茶の水女子大学に非常勤講師として招かれ、大学院の授業で「現代中国語法の諸問題」という名目で、「概数」を講義することにしたときだった。

* 当時、現代中国語の学習、研究に関しては全くの初歩段階に在ったわたしは、

習うことだけに夢中で、自分で調べ、自分で研究するという頭がなく、早速、陳先生に教えを請うた。すると先生は、「“二十来的岁”は多少ぼやかした表現で、はたちにもならないのに、といった気持、意味を表し、“二十来岁”は、はたち足らず、ということ直截的に表したものだ」というふうに説明してくれ、さらに、“二十来的岁”と同じような言い方として、北京語には“二十 lā-dā 岁”、“二十 lāngdāng 岁”ということばもある、と教えて下さった。

この教えを金科玉条として、お茶の水女子大学の講義をすませ、また、1976年度の東京教育大学大学院の最後の授業でも話し⁶⁾、さらには、1988年の秋、早稲田大学中文学会でも「北京語の“-láide”について」と題して、一席ぶったりもした。全く慚愧にたえない次第である。

さて、1980年代に入ると、なぜか中国で北京語の語彙に関する研究成果が、続々と刊行されるようになった。たとえば、

宋孝才・馬欣華1982、楊玉秀1984、陳剛1985、傅民・高艾軍1986等々。

これらはいずれも、金受申1961・1964以来絶えて見られなかった北京語の語彙に関する、清新かつ精緻な労作で、それぞれ独特の風格・長所があるが、残念なことには、“来的”が採録されておらず、わたし個人としては、多少不満を感じるとともに、やや自信を失いかけていた。しかし、それらも、ほどなく一掃された。それは、下記の一書の刊行による。

3.7 宋孝才 1987

宋氏は本書で“来的”を一語として採りあげ、次のように記している。

[-来的] -láide

用在数量词后，表示近于这个数。例：(1)学会里每月有各处的补助，凑在一处也有三百~块。(文) (2)那辆车也真是可笑，拉过了半年~，仿佛处处都有了知觉与感情，……。(骆) (p. 394)

これを見て、わたしは何ともいえない嬉しさを感じると同時に、一抹の不安を覚えた。嬉しかったのは、“来的”を一語（正しくは、語素というべきかも知れない）として考える人がいた、しかもそれが活字となって記録された、ということであり、不安は、“来的”は老舎の《骆驼祥子》だけに見られると思っていたのに、老舎の作品《文博士》にも出ていた、ということによる。

そこで、折を見ては、老舎の諸作品と、老舎とほぼ同年代の「老北京人」作家何人かの作品を、改めて読み直してみた。例えば、

老舎：《小坡的生日》1931，《离婚》1933，《牛天赐传》1936，《文博士》1936，《二马》1934，《茶馆》1958，《四世同堂》上下，1979，《正红旗

下》1962

曹禺：《雷雨》1939

吳祖光：《风雪集》1955

本社編：《传统相声集》1981

等々。

その結果、目下の処、新しくカードに採ったのが、既述の《牛天赐传》中の二例だけであった。なお、以上の資料中には、既述の〈公式〉乙のⅡの用例は、皆無で、これを北京語の概数を表す“来的”と直接結びつけて論ずることは、妥当でない、と思われる。

4. “啷当” その他について

既述のように、かつて陳東海先生は、“来的”と同じような言い方として、北京語には“二十 lādā 岁”，“二十 lāngdāng 岁”ということばもある、と指摘された。これが脳裡に焼きついて離れず、今回、“来的”を調査するかたわら、このことについても多少調べてみた処、思いがけないことを発見した。それは、“lāngdāng”という語は“来的”の場合と異なり、これまで多くの人たちに採りあげられ、いろいろと注釈を施されているが、その採りあげ方、注釈の内容がまだかなり不安定であるということ、さらには、これまでこの語と“来的”との関連については、誰ひとり言及していないが、両者の意味・用法は、極めて類似している点がある、ということである。

以下、これらについて簡単に記し、今後の調査、研究の参考に供したい。

まず初めに、叙述の便宜上、“lāngdāng”の漢字表記について記す。

“lāngdāng”は、“儿化”して“lāngdāngr”となることもあり、漢字では、

啷当(儿) 啷当(儿) 啷当(儿) 郎当(儿)

等、さまざまであるが、本稿では引用原文以外は、一応“啷当(儿)”を用いる。

また、“啷当”は、数詞の後に付いて概数を表す場合以外に、品物を表す名詞の後に付けられて、「…など」という意味を表す用法もあるが、本稿では原則として省略する。

以下、管見の及ぶ範囲内で、“啷当”を採録、説明している著作物の主要なものについて、年代を追って略述する。

4.1 倉石武四郎 1963

[lāngdāngr] 啷当(啷)儿 [名]₂……。[数]₂ほぼ…、…くらい(つ

やっばい言い方)。20～sui (二十～岁) = はたち前後。(p. 328)

4.2 陳剛 1985

[lāngdāng] 郎当 (1) <感> ……。(2)用在几十后面表示挂零儿, 有余。
| 他有二十～岁儿。| 四十～个儿。(p. 157)

この書では、数詞は「何十」かに限られ、後に付く量詞は、“岁儿”，“个儿”が用いられている。

4.3 傅民・高艾軍 1986

[啷当儿的] lāngdāngr de 缀于物类物品之后表示齐全。…… (p. 143)

[啷当儿岁] lāngdāngr suì 若干岁左右。〔例〕①这周某人三十啷当岁。(学82.10.41) ②“到底多大?” “十七八九。” “你说准了?” “二十啷当岁您哪!” (传二297) (p. 144)

この書では、“啷当儿的”と“啷当儿岁”とを別項目として掲げているが、果たして妥当であろうか。上記(4.2)や下記(4.4)のように、“岁”以外に、“个(儿)”が併用されることを考えると、問題が残る。

4.4 宋孝才 1987

[-啷当岁] (-啷当岁) -lāngdāng suì(r) 用于数词后, 表示近于这个数字的年龄。例: ①工作穿大白褂, 进恒温室, 连奖金带补贴, 一月六、七十元少不了, 顶得上个四十～岁的大学生。(李兴叶《蝉鸣声中》) ②那回在大街上一走, 雄赳赳一溜队伍, 是一水儿二十～的……。 (班) (p. 397) 7)

この書でも、“-啷当岁”全体を一語(あるいは、一つの語素)としているが、前記(4.3)の場合と同様、どんなものでしょうか。

4.5 《現代漢語詞典》補編, 1989

[啷当] lāngdāng <方> ①左右; 上下(用于表示年龄: 他才二十～岁, 正是年轻力壮的时候。②(～儿的) 列举后煞尾: ……。(p. 298)

4.6 徐世荣 1990

[郎当] lāngdāng “郎” lāng 变调。①悬垂。……②……。③挂零数之意, 多用于二十以至几十数字之后。如: “这个小伙儿二十～岁儿。” “这一筐鸡蛋也就五十～个儿吧!” (p. 233)

4.7 徐志誠 1991

[啷当] lāng·dang <数> 用在‘二十、三十’等数词后面表示概数(多指年龄): 别人还只当你不过三十～岁。(《刘绍棠中篇小说集》307

頁) | 他才二十~岁, 正是年轻力壮的时候。(《现汉》补编本)

以上の諸家の引用例を、既述の“来的”の〈公式〉甲, 〈公式〉乙にならぬ
図式化すると、次のようになる。

〈公式〉丙

I 数詞 + “啷当” + 量詞

二十	~	岁儿	(陳)
〃	~儿	岁	(傅・高)
三十	~儿	岁	(〃 〃)
二十	~	岁	《現漢》
〃	~	岁儿	(徐世)
三十	lāngdang	岁	(徐志)
四十	~	个儿	(陳)
五十	~	个儿	(徐世)

II 数詞 + “啷当” + 量詞 + “的” + 名詞

四十	~	岁(儿)	~	大学生	(宋)
二十	~	岁(儿)	~	棒郎子	(〃)

4.8 “来的”と“啷当”

“来的”に関する〈公式〉甲・乙と“啷当”に関する〈公式〉丙とを比較、
検討すると、両者の類似点・相違点は、次のようになる。

- (一) “来的”, “啷当” いずれも、数詞のすぐ後に付けられ、さらにその後
量詞が付加される場合は、ごく少数の特定のものに限られる、という点は、
非常によく似ている。
- (二) 前記の数詞には、両者いずれも「二十, 三十, ……八十」等、「十」の
単位数が用いられる場合が多い、という点もよく似ている。
- (三) ただし、“来的”の場合は、その後量詞を付けないで、例えば“八十
来的”というふうに言い切ることがあるが、“啷当”の場合には、そうい
う例は見えていない。

5. おわりに

本稿執筆の主旨は、冒頭に記したように、北京語の概数を表す“来的”と
“来”との関係を明らかにし、さらには、“来的”は“来”プラス“的”か、そ

れとも“来的”という一つの語と考えるべきか、という問題を検討することに在ったが、それと共に、“来的”と意味・用法が極めて類似している“啷”についても考察を試みた。以下、これらの諸項それぞれについて、所見をまとめると、次のようになる。

第一に、“二十来的岁”は“二十来岁”と同じ数値を表すものでなく、後者が単に「はたちならず」もしくは「はたちぐらい」という意味を表すのに対し、前者は明確に、「はたち前（なのに）」という意味を表すために用いられる。これは、現に北京に住んでいる「老北京人」⁸⁾の何人かの方々も保証している。

視点を換えてみると、「数詞+量詞+“来的”」、例えば“三块来的”の場合の“来”は、“三块多”の“多”とは異なり、全くの虚数を意味するので、“三块来”とは言い切れず、プラス“的”という形にした、あるいは、なったものであろうが、“二十来的岁”などの場合は、数詞句が“来”で収束されるわけではないのに、わざわざ“的”を付加するのは、それなりにわけがある、と解釈すべきであろう。

従って、第二の“来的”は、“lái+de”かそれとも“láide”か、という問題は、〈公式〉甲のⅠ・Ⅱ・Ⅲすべてにおいて、“láide”と解釈できるし、また、すべきだと考える。

第三に、“来的”と“啷”は、概数を表す場合、その意味・用法が非常に似ている点もあるが、全く異なる点もあることは、上述の通りである。ただし、これも第一の場合と同様、それらの表す数値と、ことばのニュアンスの違いとで、明らかに別個のものというべきであろう。例えば、現に北京に住む「老北京人」も、“二十来的岁”は「はたち前」を意味するが、“二十啷岁”は「はたちぐらい」で、場合によっては「はたち」の上にも下にもなり得ると同時に、このことばは多少軽視の意味合いも含む、といわれる。倉石1963で「つやっばい言い方」と注記してあるのも、そういったことを含めたものであろう。

最後に、陳東海先生の言われた“lādā”は、未詳。人によっては、“lātā”または“lāta”なら耳にしたことがあるともいい、全然聞いたことがない、ともいう。また、ことによると、“āngzāng”（肮脏）が“āza”（腌臢）と変化したように、“lāngdāng”が“lādā”または“lātā”になまったのではないかと、とも思われるが、これは単なる臆測に過ぎない。

筆を擱くに当たり、多年気にしていたことを何とかまとめ、本誌に掲載する機会を与えて下さった関係者ご一同に、また、貴重な時間を割いて、種々有

益な助言を賜った北京師範大学の俞敏教授、北京語言学院の宋孝才教授、人民文学出版社の彌松頤氏、その他の方々に、心からお礼を申し上げたい。

注

- 1) 《老舍文集》第3卷。人民文学出版社，1982。以下同じ。
- 2) 《同上》第3卷。この文例は、宋孝才1987の提示による。
- 3) 《同上》第2卷。1981。以下同じ。
- 4) 引用参考文献については、下記の「参考文献」の項参照。以下同じ。
- 5) これらの用例に関連し、倉石1965、同1969でさらに具体的に補説しているが、本稿では省略。
- 6) 学年末に、《骆驼祥子》の「注釈ノート(稿)」(B4版，104頁)を作製，コピーして受講の学生数名に配布。その中でも“来的”について解説。
- 7) この例文の末尾の省略部分は、同書の“一水儿”の項の例文では“……二十啷啷岁的‘棒郎子’(小伙子);……”(p. 763)となっている。
- 8) 胡1987の用語(p. 10)を借用。

資料 { *は、使用テキストを示す }

- 老舍《小坡的生日》1931。*《老舍文集》第2卷，商务印书馆
// 《离婚》1933。*《同上》第2卷
// 《二马》1934。*1935，商务印书馆
// 《茶馆》*1958，中国戏剧出版社
// 《四世同堂》上下，*1979，百花文艺出版社
// 《正红旗》1962。*1980，人民文学出版社
梅阡编《剧本骆驼祥子》*1958，中国戏剧出版社
曹禺《雷雨》1936。*1939，文化生活出版社
吴祖光《风雪集》*1955，人民文学出版社
本社编《传统相声集》*1981，上海文艺出版社

参考文献

- 張1953：张志公《汉语语法常识》，中国青年出版社
陸・俞1954：陆宗达、俞敏《现代汉语语法(上册)》，群众书店
呂1957A：呂叔湘“试说表概数的‘来’”，(《中国语文》总第58期。《汉语语法论文集(增订本)》1984，商务印书馆，再录。呂1957B亦同)
// 1957B：呂叔湘“再说‘来’，以及‘多’和‘半’”，(《中国语文》总第63期)
劉1957：刘凯鸣“对‘试说表概数的‘来’’的一点补充意见”，(《中国语文》总第63期)
金1961：金受申《北京话语汇》，商务印书馆。1964，修订本
倉石1963：倉石武四郎『岩波中国語辞典』，岩波書店。1990，簡体字版

- // 1965 : 同上『中国語のくみたて』, 北辰
- // 1969 : 同上『ローマ字中国語語法』, 岩波書店
- 宋・馬1982 : 宋孝才、马欣华《北京话词语例释》, 铃木出版
- 楊1984 : 杨玉秀《老舍作品中的北京话词语例释》, 北京大学出版社
- 陳1985 : 陈刚《北京方言词典》, 商务印书馆
- 傅・高1986 : 傅民、高艾军《北京话词语》, 北京大学出版社
- 宋1987 : 宋孝才《北京话词语汇释》, 北京语言学院出版社
- 胡1987 : 胡明扬《北京话初探》, 商务印书馆
- 現漢詞補1989 : 《现代汉语词典》补编, 商务印书馆
- 徐世1990 : 徐世荣《北京土语辞典》, 北京出版社
- 徐志1991 : 徐志诚《现代汉语口语词典》, 辽宁人民出版社

(文教大学)